

中国共产党、第3の歴史決議へ

40年ぶりの総括 あすから6中全会

中国共産党の歴史決議



毛沢東

若干の歴史問題 に関する決議

概要 結党以来の党的歩みを総括。国民党との合作を進めた右派や原理主義の左派とともに批判し、「毛沢東の路線・指導こそが革命に勝利をもたらす」と結論づけた。

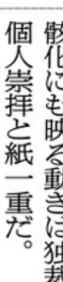
建国以来の党の 若干の歴史問題 に関する決議



鄧小平

概要 文化大革命を「党、国家、人民を最悪の挫折と損失にさらした」事件と総括。毛は「主要な責任を負っている」と過ちを指摘する一方、「功績が第1で誤りは第2」とも記述

いすれも直近の政治対立や権力闘争に区切りをつけ、負の歴史の総括に重きを置く内容だった。だが、習氏には省みるべき負の歴史は見当たらず、「反腐敗闘争」で党高官を次々と摘発し、追い落とすライバルも存在しない。



党指導部はこうした懸念にも注意を払っている。8月に発表した文書の中で、「党が核心（習氏）を擁護するのは俗な「個人崇拜」などではない」とわざわざ言及した。指導部が個人崇拜との見方に意見を示すのは極めて異例のことだ。

『権力者の秩序ある交代』の必要性を説いており、長期政権は終身制とイコールではないはずだ。歴史決議への異論が出る雰囲気もない」と話す。(北京=富名腰隆)

掲載の記事・写真的無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

Copyright The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.

決議の名称は、「一党的100年奮闘の重大な成果と歴史的経験に関する決議」だ。6中全会で歴史を何らかの形で総括することは8月末に発表されていたが、重要な政策決定に対しても行う「決議」とする」とは1月18日まで明かされなかつた。

過去、党が歴史決議を出したのは毛沢東時代の1945年と鄧小平時代の81年の2回しかない。決議によって歴史を評価する行為が極めて重いという認識は、党内で広く共有されていく。

ある外交筋は「歴史決議は現在や将来の党理念や方

ある外交筋は「歴史決議は現在や将来の党理念や方針性にも影響する。今回、決議を出すことに慎重論もあつた」と明かす。

中国共产党が40年ぶりとなる「歴史決議」を、8日から始まる中国共产党中央委員会第6回全体会議（6中全会）で審議・採択する見通しだ。習近平総書記（国家主席）を中心とする政治体制の正当性を打ち出す狙いがある。習氏にとって、決議は長期政権へ向けて重要な布石になる。

長期政権への布石

関係者は、「歴史決議への準備は今春から水面下で始まつた」と説明する。

の100年の「経験」を積極的に評価することで、毛、鄧の時代を継いで自ら

関係者は、「歴史決議への準備は今春から水面下で始まつた」と説明する。文書作成にあたる「起草グループ」を束ねるのは党の理論構築やプロパガンダ（宣伝戦略）の責任者である序列5位の王滬寧（ワウ・ナン）政治局常務委員だ。中央政策研究室や中央党史文献研究院など、党の「頭脳」ともいるべき部門が作業を担当し、検討が重ねられてきたといふ。毛、鄧の時代を継いで自らの「新時代」を中国現代史上に位置づけ、権威を高めることにあるようだ。

今年、20年ぶりに改訂した正史「中国共産党略史」は、習氏が総書記に就任した2012年以降に全体の3割をあて、看板政策である「反腐敗」や「一帯一路」の成果を記した。

ただし、過去の2回の歴史決議と比べると、その位置づけはやや異なるものになりそうだ。

した鄧の時代から、「強さ」を追う時代に入ったとし、富の再配分に軸足を置く「共同富裕」を打ち出した。だが富裕層からの反発もあり、それを抑えるためにも強い指導力を必要としているようだ。

習氏は歴史決議をへて、
来年の党大会で異例の3期

目に入る可能性が高い。
「一強」の状況が覆る気配
ではなく、集団指導体制の形

核化にも映る動きは独裁や個人崇拜と紙一重だ。

党指導部はこうした懸念にも注意を払っている。8月に発表した文書の中で、「党が核心（習氏）を擁護するのは俗な「個人崇拜」などではない」とわざわざ言及した。指導部が個人崇拜との見方に意見を示すのは極めて異例のことだ。

『権力者の秩序ある交代』の必要性を説いており、長期政権は終身制とイコールではないはずだ。歴史決議への異論が出る雰囲気もない」と話す。(北京=富名腰隆)

掲載の記事・写真的無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

Copyright The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.